

# 卷 頭 言

最近新聞の報ずるところによれば獨逸の對英佛戰に於ける電撃作戰は驚異的偉效を奏し全世界は呆然として其神速果敢を驚嘆してゐる。最新型戰車數千臺の猛進、落下傘部隊の活躍、特種砲の現出はマジノ線抵抗を無力とした。これこそ歐洲戰後二十年間に於て獨逸の完遂した科學總動員の結果に外ならない。

顧みて吾國の情勢は如何？教育によるは勿論、雜誌、新聞、書籍其他による科學智識は相當廣く普及された。然しながらそれは未だ科學智識の範疇を出てはゐない。科學實踐に關する限り遙に世界的水準下にあることは否めない。現状を以て推移するならば益々この水準に遠ざかるばかりではないか。今こそ科學實踐の時期である。

最近の吾政治經濟形態が漸く科學主義實行の黎明を迎へてゐることは確である。現今の政治經濟を行ふに科學智識なしには行けないことも確認されてゐる。

科學實踐の經驗者でなければ政治も經濟も行へなくなる時代が既に明日に迫つてゐることも認識されてゐる。これを延擱すればする程國の進歩國防の完備は世界的水準より遠く下落する。

政府はよろしく科學主義への移行を斷行し技術を尊重し之が進捗向上を促進せしめ之等の按配調整の手段を計ることこそ今日當面の重要施策であると思ふ。

その一つの方策として茲に總務廳技術次長の設置を提唱する。即ち事務次長と並んで技術に關する事項を取扱ひ總務長官科學補佐の役を果すのである。これにより總務廳の技術權威は向上し誤りなく科學國策の遂行が行はれ國運は劃期的な隆昌を來すであらふ。

以上技術の行政部門に於ける比重の重大性を説き其尊重を力説したけれども同時に吾々技術者の責任の重要性を力説したい。

常に國勢の趨くところを察すると共に専門技術に關しては飽くまで精進これ努め研究練磨日夜怠らず其事業完遂の功罪に對し明確なる責任を負ふの覺悟を必要とする。

從來兎角技術者は責任をとることが甚だ薄かつた。事務官が自分の功罪に對して責任をとることの明確なのに比して技術官は甚だ曖昧であつた事は争はれない技術に關してその責任の所在を明にすべく常に自省しなければならない。